

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	8	大学等名	仙台高等専門学校
テーマ	テーマ I アクティブ・ラーニング		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・初年次から5年間にわたる一貫教育の中で、80%を越える授業科目においてアクティブ・ラーニング（AL）を導入している。また、ICT機器を活用した双方向授業、LMSによる資料配付と報告集計の実施、Webシラバスで到達目標とルーブリックによる評価指針を教員学生間で共有するなど、効果的・効率的なALを実現している。さらに、授業実施アンケートによる授業の評価、ジェネリックスキル測定を用いた個別学生の能力向上把握等による取組の評価体制が整えられていることは評価できる。
- ・教員の教授スキルや授業設計スキルの向上を目指した教員研修が活発に行われていることは評価できる。授業設計研修やインストラクター研修等によるAL先導教員養成、教員間の双方向型FD（やじカフェ）などFDの実質化に取り組み、専任教員のほぼ全員がALを導入・展開している。また、ALや教育改革へ積極的に取り組む教員に校長裁量経費による予算配分がなされ、更にその成果発表にかかる費用も手当てされているなど、教員の動機付けがなされていることは評価できる。

<改善を要する点>

- ・3種類の授業スタイルのうち、マイペース完全習得学習は試行科目のコンテンツ作成の段階である。開発科目数も11科目であるので、取組を強化する必要がある。
- ・学生の主体的な学びについては様々な効果が見られているようであるが、ある程度数値化された定量的な指標で示す必要がある。
- ・PDCAサイクルとして挙げている「授業力向上システム」は授業改善と授業力向上に有効に機能しているが、AP事業全体のPDCAサイクルにはそのまま適用できない。事務組織との連携、FD活動のチェック、自己点検評価、外部評価委員会からの評価など、運営体制全般の見直しのためのPDCAサイクルを明らかにする必要がある。
- ・補助期間終了後は授業力向上システムを活用することで既存の職員で対応可能とされているが、マンパワーの不足が懸念される。また、タブレット等の情報機器の日常的なメンテナンス等は片手間の作業ではできないと考える。楽観的にはならず、将来に向けた資金計画を再検討する必要がある。